

対談 1・2

対談 1

フィールドワークによる仮説の生成

話し手	箕浦康子	お茶の水女子大学文教育学部
話し手・聞き手	南 博文	九州大学大学院人間環境学研究所
司会者	浜名外喜男	兵庫教育大学学校教育学部

研究の方法論としてどのようなアプローチを選択するかは、問題の性質や研究者の考え方などによって異なるであろうが、現在の教育心理学的研究は、一般に、研究者自らがありのままの現実に関し、それらを自分独自の切れ味の鋭い視点をもってとらえようとする姿勢に欠けているように思われる。また、仮説を検証する過程に重きが置かれすぎ、検証に値する味のある仮説をいかに生成するかといった点が軽視されているようにも思われる。さらに、おそらくこれらの事柄は定式化することが難しいため、研究者育成においても軽視されてきたように感じられる。

箕浦先生のごく最近のご著書によれば、フィールドワークとは「人と人の行動、もしくは人とその社会および人が創り出した人工物 (artifacts) との関係、人間の営みのコンテクストをなるべく壊さないような手続きで研究する手法」であるが、本対談では、フィールドワークによる仮説の生成（特に、箕浦先生のご著書に記されている、切れ味の鋭い“概念的カテゴリー”を見いだす“ワザ”や、領域密着理論を一般的な抽象度の高いフォーマルな理論に熟させる“ワザ”）についてお話しいただく。

進行の形式としては、最初に箕浦先生にお話しいただき、以降は、南先生が箕浦先生に問いを投げかけながら自由な形式で対談していただく予定である。

対談 2

教育心理学研究のレフェリー経験談

話し手	内田伸子	お茶の水女子大学文教育学部
話し手	森 敏昭	広島大学教育学部
司会	松山安雄	甲南女子大学文学部

投稿した論文が学会誌に掲載されるか否かは、それが学問の本来の目的ではないにしても、現実には、ほとんどの研究者にとって重要な関心事であろう。そして、他の（おそらく、あらゆる）制度と同様に、学会誌に投稿された論文の審査制度およびその運用には、さまざまな問題点が存在するであろう。それは、制度そのものの問題、審査者の問題、投稿者の問題に大別されるであろうが、これらの問題が、多くの学会員が会している場で語られることは、これまでは、ほとんどなかったように思われる。そのため、個々の会員が論文審査の在り方に対して抱いている疑問や要望などが審査制度についての論議に十分には反映されていないように考えられる。また、投稿者と審査者の間のコミュニケーションが必ずしも円滑にはなされていないことの一因になっているのではないとも推測される。このようなことから、本対談では、教育心理学研究に投稿された論文の審査を数多くなさってこられたお二人の先生に、論文審査の在り方に関するご意見や投稿者へのアドバイスなどを中心にして、経験談をざっくばらんにお話しいただく。

進行の形式としては、まずお一人お一人にお話しいただいた後、互いの意見交換とフロアを交えての討論を行う予定である。